

みやぎ震災復興研究センター学習講演会

東日本大震災に至る

宮城県の事前防災を検証する

—大川小裁判を踏まえて—

講師：林 衛さん（富山大学准教授）

日時：2020年4月4日（土）

14:00～16:00（時間延長有）

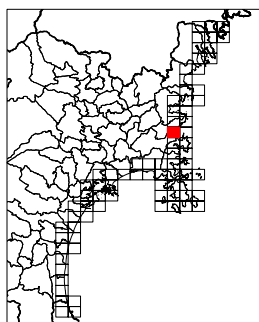
場所：仙台市戦災復興記念館4階第1会議室

【欠場無料】

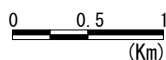
宮城県知事の言うように、東日本大震災の巨大津波は想定外で事前防災に瑕疵はなかったのでしょうか。しかし、大規模な津波と広範な浸水被害は予測されていました。30年以内に99%の確率で発生すると言われていた宮城県沖地震の津波です。

津波浸水予測図

断層：宮城県沖（連動）
範囲：574163-4



縮尺：1/25,000



予想される浸水深



既往津波の浸水域

— 1933年昭和三陸津波
— 1960年チリ地震津波（不明）

避難所

避難所

製作：宮城県総務部危機対策課

県の第三次被害想定（2004年）は、連動型ならマグニチュード8.0の巨大地震により4メートルを超える津波が襲うと予測していました。予測には誤差がつきもの。東日本大震災による津波浸水も第三次想定をもとに予測できたと大川小事件高裁判決は指摘しています。この想定が事前防災に正しく反映できず、結果として尊い犠牲と甚大な被害をもたらしたのはなぜか。そこに電力資本の思惑と圧力は影響しなかったのか。大川小事件の科学的検証に取り組んできた林先生が、詳細な調査結果をもとに解明します。

主催：みやぎ震災復興研究センター

問合せ：事務局・遠州尋美 090-8950-3508

miyagishinsallabo@gmail.com

**協賛：東日本大震災復旧・復興支援
みやぎ県民センター**